

ユニバーサルデザインの概念

ユニバーサルデザインとは

■ユニバーサルデザインとは

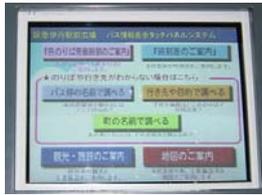
ユニバーサルデザインは障害を持つ米国人建築家、ロナルド・メイスにより 1980 年代に提唱されたもので、高齢者や身体障害者という特定の人に限定せず、また、あらゆる体格、年齢、障害の度合いに関係なく、

「できるだけ多くの人々が利用可能であるように製品、建物、空間等をデザインすること」

と定義されている。更に低コストかつ美しいデザインであることが重要であるとされている。

■ユニバーサルデザインの7つの原則

ノースカロライナ州立大学のユニバーサルデザインセンター(ロナルド・メイスを含むユニバーサルデザインのリーダー達)では、ユニバーサルデザインの「7つの原則」を提唱している。

<p>公平性</p> <p>誰もが平等に利用できる</p>  <p>←エレベーター、エスカレーター、階段の併設で全ての人が公平に利用可能</p>	<p>安全性</p> <p>危険がなく、安心して利用できる</p> 
<p>柔軟性</p> <p>あらゆる人に応じた使い方が選択できる</p>  <p>←使う人の様々な用途に対応できるトイレ</p>	<p>省体力</p> <p>無理な姿勢をとることなく、楽に利用できる</p>  <p>↑タッチパネル式の情報案内</p>
<p>単純性</p> <p>使い方が直感的に理解でき、簡単</p>  <p>←使い方がすぐ分かる動く歩道</p>	<p>スペース確保</p> <p>利用するのに適切な広さと幅がある</p>  <p>↑アクセスしやすい幅広の改札</p>
<p>わかりやすさ</p> <p>必要な情報が容易に理解できる</p> <p>はっきりとしたサインにより → 位置が分かりやすくなったトイレ</p> 	

■その他のユニバーサルデザインの原則・考え方

先述した7原則が、ユニバーサルデザインの全てを言い表しているのではなく、以下のように異なる視点からも説明されている。

「よいデザインが満たすべき要件とは、安全性、アクセシビリティ、使い勝手、価格妥当性、持続可能性、そして審美性、この6つである。(中略)先に挙げた6つの要件のうち最初の4つが重要となる。価格妥当性とは欲しいときに誰でも手が届くということ。」 (古瀬敏)

「ユニバーサルデザインの考え方は人間工学的ものであり、7つの原則は美しさを言っていない。」 (ジェイク・パウルス)

「7つの原則を満足していても、環境に負担をかけるものは意味がない。」 (リカルド・ゴメス)

「完璧なユニバーサルはない。しかし他のものより、よりユニバーサルなものはある。7つの原則のうち5つしか満足しなくても十分な価値はあるし、完璧でなくてもより多くの人が使えることには変わりはない。」 (モリー・ストーリー)

■社会資本整備におけるユニバーサルデザインの原則

先述した“ユニバーサルデザインの7原則”及び“その他のユニバーサルデザインの原則・考え方”を基に、社会資本整備におけるユニバーサルデザインの原則は以下のとおり整理できる。

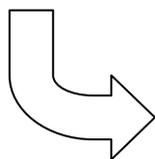
【“(一般的な)ユニバーサルデザインの原則・考え方”の要約】

ユニバーサルデザインの7原則：公平性・柔軟性・単純性・わかりやすさ・安全性・省体力・スペース確保

→公平・安全・使いやすいデザイン

【社会資本に求められる要件】

- ・ 誰もが公平に機会を与えられるという意味で、アクセシ性(近づきやすさ)とモビリティ(移動しやすさ)
- ・ 過剰な投資を避ける観点から経済性
- ・ 使いたくなる魅力や地域の顔を考慮して美しさ
- ・ 社会資本整備において特に関わりの深い環境への配慮



【社会資本整備におけるユニバーサルデザインの原則】

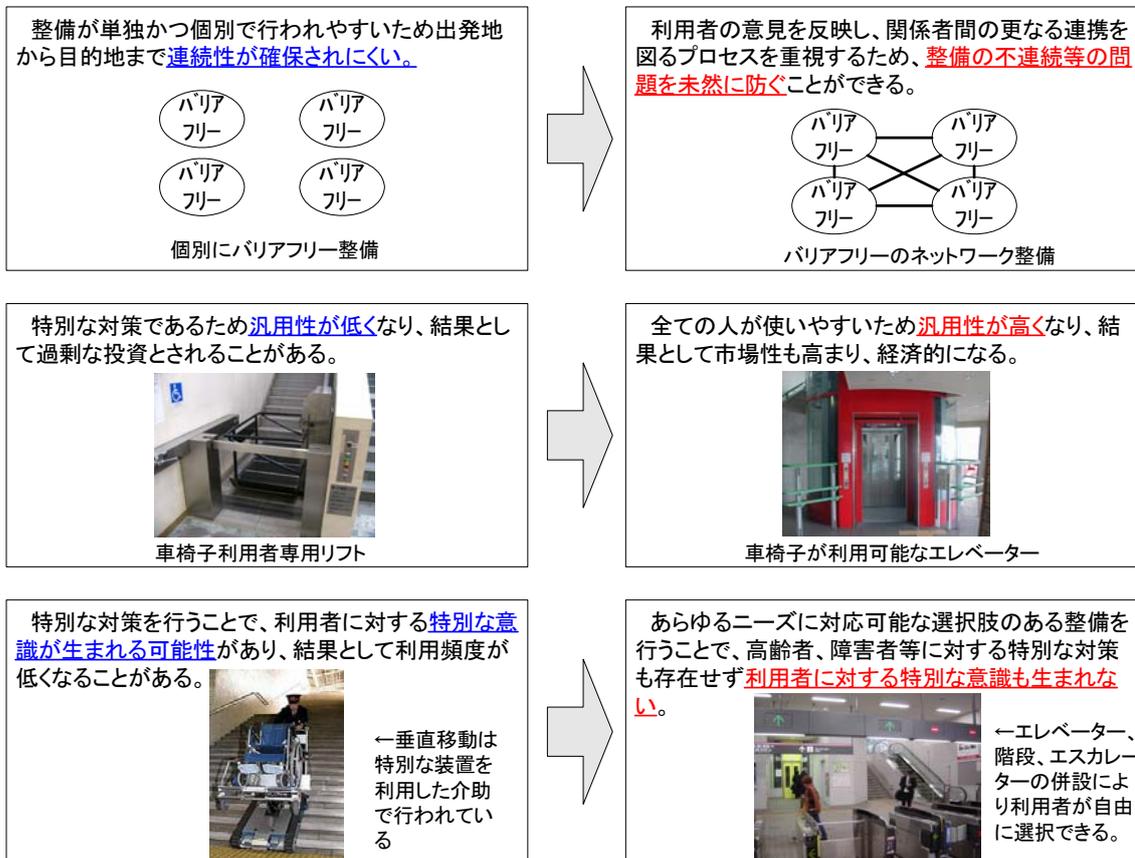
- ◇ 公平・安全で使いやすいデザイン
- ◇ 移動しやすく近づきやすいデザイン
- ◇ 経済的なデザイン
- ◇ 持続可能なデザイン
- ◇ 美しくさりげないデザイン

バリアフリーとユニバーサルデザインの違い

■バリアフリーとユニバーサルデザインの違い

	現 況	バリアフリー	ユニバーサルデザイン
考え方	健常な人に合わせた整備	特定の方の障害(バリア)をなくす(フリー)	はじめから全ての人を使いやすくデザインする
対 象	健常者	高齢者、障害者	全ての人
事 例	<p>【普通のコバス】</p>  <p>段差があるため、車いすの人や足が不自由な人は、乗降が不便である。</p>	<p>【リフト付きコバス】</p>  <p>車いすや足の不自由な人のためにリフトを設置した。しかし、特別な機械なので使う人が限定される。</p>	<p>【超低床ノンステップコバス】</p>  <p>特別な機械を使わずに段差をなくした。車いすや足の不自由な人だけでなく、全ての乗降が楽になる。</p>

■どのように“バリアフリーからユニバーサルデザイン”になるか



→ユニバーサルデザインはバリアフリーの様々な問題を解決することが可能となる。